



東京の会通信

No.310

2023年9月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrows.or.jp/tokyo/>
e-mail.marrows_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100円

第34回東京の会総会

～「最新の移植医療について」特別講演を開催～

6月24日(土)、第34回東京の会定期総会が新宿のこくみん共済coop東京会館会議室で開催されました。今年もzoomを併用しハイブリッド形式で実施しました。今年は新型コロナウイルスに伴う規制が緩和され感染症上の位置付けが5類へ移行したこともあり毎月の定例会にzoomで参加しているメンバーを含めて、総会には会議室までたくさんの方が足を運んでくれました。総会では、2022年度の報告及び2023年度の活動方針、役員を提案し全議案が承認されました。総会終了後は特別講演として国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科長の福田隆浩先生に「最新の移植医療について」ご講演頂きました。

リアル参加でメンバーが集った総会

11時から始まった総会の冒頭で、司会の若木さんから5月に亡くなった鳥羽雅之さんの話があり、みんなでご冥福をお祈りしました。以前の総会でカ一杯活動宣言を述べ、カメラを構えてたくさん写真を撮ってくださった鳥羽さんの姿を思い出し、全力の闘病が叶わなかったことを本当に残念に思いました。

総会は東京の会で一番若い中根さんが議長を務めすべての議案が承認されました。11時半からは国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科長の福田隆浩先生に、「最新の移植医療について」をテーマにご講演いただきました。移植を受ける患者さんのQOLを守るため、『前処置を弱めてドナーからの免疫力でカバーする』『移植後に使用する吐き気止めが大変進歩してコントロールできるようになった』『化学療法、分子標的薬を使って移植なしで完治を目指す選択も』『患者さんの価値観を大事にして決める』等、移植を成功させるために日々努力され、進化している医療の実際を知ることができました。また、骨髄バンクのド



ナー選定に関する研究もされているお話があり、ドナー側の都合がつかずコーディネート中止になる理由を調査、やは

り健康理由で中止になりにくい若いドナー登録者を増やすことが有効、一人の患者に対して10～12人のドナー候補者が必要であると聞いて、これからも説明員として登録会を頑張ろうと思いました。

講演の後はホテルローズガーデン新宿へ移動し、レストランの外のテラス席で懇親会&昼食会になりました。コロナ禍を経て、またこのようにたくさんの方が揃って総会ができたことを嬉しく思いました。
(松下倫子)

大きな宿題をもらった有意義な時間

総会にリアル参加して先ず感じたこと。「さすが日本の中心東京の会だ…」ハイブリッドでの開催。このシステムを遂行する環境と何より人力！この会を支えてきた凛とした雰囲気を持つ方々、勢いのある頼もしい若者、元患者、ドナー、家族、様々な立場の方が世代を超えて、変わりゆく世の中で、偏りなく幅広く活動できていることの素晴らしさにあらためて気付かされた。愛と優しさに溢れている…。

そして特別講演、福田先生の「最新の移植医療について」では、医学の進歩をわかりやすく伺うことができた。最後のテーマ「骨髄バンクに期待すること」は、大変興味深く、行動経済学におけるナッジ効果、についてはもっとお話を聞きたかった。「肘で軽くつくような小さいアプローチで人の行動を変える」説明員の活動をしながら、関心のない人に振り返ってもらえるような普及啓発を常に考えている私にとっては有意義な時間であると同時に大きな宿題を与えられた気がしたが、その後の懇親会が楽しすぎて、すっかり今まで

後回しにしていた、、、。さあ、とりくまなくっちゃ！
(小石川知子)

移植後のフォローアップの大切さについて理解を深める

会場集合とオンラインのハイブリッド形式で行われた今年の定期総会は、昨年に引き続き、議事や司会の進行がとてもスムーズで、準備をしてくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

2022年度の活動を振り返り、COVID-19感染拡大により縮小してしまっていたドナー登録推進活動等、対面での活動も2022年下半期から増えてきていることを議事の中で再確認することができました。

定期総会後の特別講演では、福田隆浩先生による「最新の移植医療について」の情報とともに、移植後のフォローアップの大切さについて、時間軸とともに理解を深めることができました。

また、自治体のドナー休暇助成制度などを活用したドナー提供につながる制度の案内などを通じて、多くの方にチャンスを届けられるよう活動を継続していきたいと感じました。
(小山内直樹)



東京の会で活動中の、新しい仲間をご紹介します

東京の会の定例会やおりおり、ドナー登録会場で、今年も新しい仲間が活躍中です。すでに顔なじみの方もいらっしゃいますが、改めて新人さんに自己紹介してもらいます。



泉 孝之さん

東京の会に所属させていただいてます泉孝之と申します。よろしくお願ひします。

1963年2月24日生まれです。飲食や食品を扱う仕事をして

いましたが、7年前脳出血で

倒れ、その後遺症で右片麻痺の障がい者になりました。

いろいろな方にお世話になり私も何かお返しができるか？と思ひました。先ずは献血のお手伝ひをしましたが、ある時骨髄バンクのドナー登録の説明員の方と一緒に、自分も説明員をやりたいと思ひました。東京都の説明員養成講座を受講して説明員となり東京、神奈川、埼玉で登録会に参加させて頂ひています。

まだ始めて2年目ですが毎回勉強させて頂ひております。



桑田 久美子さん

桑田久美子と申します。現在、大学病院に勤務しております。よって骨髄移植やドナーさんという単語はどちらかという身近な単語ではありません。実際に業務で、他院

から骨髄液を運搬する、という事も稀にございます。ですが、知らない事だらけということを現時点で実感しております。

この度、園山さんからお誘ひを頂き、こちらの会に入会させて頂くというご縁に恵まれました。同時に説明員としての登録を致しました。その登録の際には、

研修から申請まで、会の方々にお導き頂き、すでに大変お世話になっております。経験豊富な方が多く、全てにおいて学ぶ事が多いです。

骨髄液の提供とは、病気の人に新しい命を届ける事。病気と闘っている方にとって、希望の光になる、という事を正しく皆様にお伝えし、多くの方にドナー登録をして頂き、救える命が増えるお手伝ひができるのであればとても嬉しく思ひます。

これまでに培った少しの知識と、今後たくさん学びを進め、細く、でも長く活動を続けて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。



園山 千夏さん

ゆるキャラ好きの卯年、ふなっしー食堂で撮った写真で失礼します。

2022年3月まで大学病院の事務職員として、医療スタッフと患者さん・患者ご家族と

の橋渡的な役割(医療メディエーター)を任されておりました。勤務していた病院で骨髄移植の現状を知り、骨髄バンクや診療支援に関して、職場を離れても何かお役に立てることがあればと思ひ、東京の会にお邪魔いたしました。

ドナー登録説明員になりこの1年間、月数回ペースで東京都内だけでなく、神奈川県内の登録会にも参加しております。

更に、高校生が献血広報できるように、日赤との連絡調整を始めました。子供が通っている高校がボランティア活動に積極的で、赤十字血液センターが近所にあることもきっかけとなり、高校生と保護者の方が献

血の呼びかけや案内を行う取りまとめをしています。今まで3回実施して、日赤さんからご好評いただき、輪が広がると良いかと、次の機会が待ち遠しいです。

献血会場での活動を通じて、毎回新たな出会いと発見があり、若い世代の熱い思い、温かい善意と優しさに癒されています。東京の会のイベントもお手伝いできることを楽しみにしていますので、これからもよろしく願っています！



宮本 太志さん

私はブルデンシャル生命保険という外資系の生命保険会社に勤めております。「ドナーニーズベネフィットの日本での導入」や、「箱根駅伝での骨髄バンクの幟を立てるボランティア」など、弊社では骨髄バンクに触れるきっかけは様々ありますが、2019年にある衝撃的なことがあ

りました。

「献血と骨髄バンクは運営の母体が違うこともあって、ドナー登録の数が思う以上に増えない現状がある。」という荒井daze善正さんのお話を聞いた時のことです。

「人を救う」という大テーマは共通であるはずなのに、何故足並みを揃えられないのか？そんな疑問と憤りを感じたことを今でも鮮明に覚えています。

以来、dazeさんの行っているSNOW BANKには毎年関わらせて頂いていますが、このイベントですら「ドナー登録に行ったつもりが、登録できずに献血が終わってしまった」という声があることを聞き、「これは問題に対して直接向き合う必要がある」そう考え、説明員の資格を取った次第です。

私1人で出来ることは小さいかも知れませんが、1人でも多くの血液難病の方の救いになれるよう誠心誠意尽くして参ります。宜しく願い申し上げます。

ピアノ三重奏コンサート「響」求道会館で開催

昨年3年ぶりに復活して大好評だった『ピアノ三重奏コンサート 響』、今年も求道会館で開催いたします。皆さまお誘い合わせの上、ぜひふるってご参加ください。

【日時】 2023年11月23日（木・祝）開演 15：00～

【場所】 求道会館（文京区本郷6-20）

南北線「東大前」駅 徒歩5分 大江戸線・丸の内線「本郷三丁目」駅 徒歩15分

【出演】 三戸素子（ヴァイオリン）・小澤洋介（チェロ）・高田匡隆（ピアノ）

【演奏曲】 フランク　：前奏曲、フーガと変奏曲 作品18（ピアノ独奏）

カサド　：親愛な言葉（チェロ&ピアノ）

クライスラー：愛の喜び（ヴァイオリン&ピアノ）

シューベルト：ピアノ三重奏曲第1番 変ロ長調 作品99

【入場料】 3,000円



コンサート申込み

- ◆お申し込みは <<https://x.gd/DYqdc>>（右上二次元コードからアクセス可）よりお申込みフォームに入力していただくか、東京の会メールアドレス <marrow_tokyo@yahoo.co.jp>宛に、下記必要事項をご入力してお申込みください。件名を『コンサート申し込み』とし、本文に『お名前』『電話番号』『希望人数』をご記入ください。
- ◆ご登録いただいたメールに、数日以内に登録完了のメールをお送りいたします。
- ◆代金は、当日入口受付にてお支払いください。つり銭の無いようご協力お願いいたします。
- ◆キャンセルの場合は、事前に必ず上記東京の会メールアドレスまでお知らせください。
- ◆今年も客席の利用は1階席のみとなります。ご希望の方は、お早めにお申し込みください。

11月会報発送 「おりおり」のお知らせ

日時：2023年11月5日（日）14時00分より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しく下さい。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※2024年1月「おりおり」予定 2024年1月7日（日）14時より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

2022年度 決算報告

| 【収入の部】 | | 【支出の部】 | | 【資産増減明細】 | | |
|--------|-----------|---------|-----------|------------------|-----------|-----------|
| 会費 | 240,000 | 収益事業費 | 216,740 | 資産内容 | 繰越資産期末 | 前年度繰越期首 |
| 寄付 | 824,212 | 業務諸経費 | 36,280 | 現金 | 86,579 | 0 |
| 賛助会費 | 0 | 通信発送費 | 384,241 | 郵便振替口座 | 398,050 | 474,050 |
| 事業収入 | 180,000 | 普及広報費 | 413,400 | 郵便貯金 | 790,696 | 648,600 |
| 受取利息 | 5 | 賃借料 | 198,000 | 普通預金 | 128,843 | 128,843 |
| 助成金 | 171,080 | 損害保険料 | 0 | 過払金*二重支払分(全国協議会) | 3,000 | 1,119 |
| 雑収入 | 0 | 全国協議会会費 | 120,000 | 預り金*他者への寄付金 | ▲ 5,000 | ▲ 5,000 |
| | | 支払手数料 | 3,080 | 前受会費*2023年度会費預り金 | ▲ 3,000 | |
| | | 慶弔費 | 0 | 未払金*会報印刷・発送費3月号分 | ▲ 93,852 | |
| 小計 | 1,415,297 | 小計 | 1,263,741 | 差引 | 1,305,316 | 1,247,612 |
| 合計 | 1,415,297 | 未払金 | 93,852 | 当期余剰金 | | 57,704 |
| | | 当期余剰金 | 57,704 | 合計 | 1,305,316 | 1,305,316 |
| | | 合計 | 1,321,445 | | | |

<収支差額>

収 入-支 出= 57,704

<資産増減>

期末-期首=57,704

2023年度活動方針

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会経済活動が通常に戻ってきていることを踏まえ、2023年度は、引き続き感染対策を講じながら、より積極的に活動を展開します。

〈1〉ドナー登録推進

新型コロナウイルスの影響もあり、ドナー登録者数が減少しています。特にドナープールの維持・拡大には若年層の登録推進が不可欠です。日本赤十字社や骨髄バンク、ボランティア団体等と連携して、献血ルームや移動献血会場等におけるドナー登録推進活動を行い、一人でも多くのドナー登録者の確保に努めます。

〈2〉患者・患者家族への情報提供と支援

患者の闘病に役立つ情報を発信するとともに、患者・患者家族に対する具体的な支援を検討します。

〈3〉骨髄バンクの普及啓発活動

会報やインターネットを活用した情報発信をおこなうとともに、イベントの開催や地域における普及啓発

活動を行います。

〈4〉より機能する移植医療を目指して

日本骨髄バンクや日本赤十字社、厚労省等に対し、ドナープール拡大に向けた新たな登録方法の導入など、必要な対策を求めます。

また、東京都に対して、ドナー支援制度の全自治体での実施や、ドナー説明員養成講座の継続、ドナー休暇制度の普及啓発などの政策実施を要望します。

〈5〉持続可能なボランティア活動に向けて

若い世代を中心とする新たな活動の担い手の育成、会計収支改善などを進め、東京の会の活動の持続を図ります。

2023年度東京の役員

| | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|------|-------|
| 《代表》 | 二見 茂男 | 《会計監査》 | 大塚 和博 | 《顧問》 | 野村 正満 |
| 《代表代理》 | 若木 換 | | 竹崎 恵子 | | 新田 恭平 |
| 《事務局長》 | 光江 健太郎 | 《業務監査》 | 柴谷 みち子 | | 三瓶 和義 |
| 《会計》 | 石崎 保夫 | | 名川 一史 | | |
| | 石崎 友子 | | | | |

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和5年7月末日現在)

| | ドナー(全国) | ドナー(東京) | 患者(全国) |
|---------|---------|---------|--------|
| 登録者総数 | 547,318 | 70,325 | 67,070 |
| 6-7月登録分 | 5,933 | 777 | 368 |
| 6-7月登録分 | 4,491 | 609 | - |
| 実質登録増 | 1,442 | 168 | - |

患者とドナー登録・適合状況(7月末日現在)

| | |
|-----------------|----------------------|
| ドナー登録受付者数(累計) | 934,032人 |
| ドナー登録抹消者数(累計) | 386,714人 |
| HLA適合報告ドナー数(累計) | 373,444人 |
| 実質登録患者実数(現在) | 1,627人(国内1,143人) |
| HLA適合患者数(累計) | 53,384人(患者累計数の79.6%) |
| 非血縁移植実施数 | 27,958例(6-7月実施217例) |

想像力がきっかけになる

中根 悠貴

登録するまで

私がドナー登録したきっかけは、骨髄バンクの登録説明員として活動し始めたことです。

説明員の募集をどこで見つけたのかは正直よく覚えていません。しかし、案内を読むうちに「人の役に立てるかもしれないって、なんかかっこいいな」と惹かれたことははっきりと覚えています。そのような出会いだったため登録に抵抗はなく、すぐにドナー登録しました。

二度の適合

登録してからまもなく、ちょうどクリスマス頃、オレンジ色の封筒が郵便受けに入っていました。「もう来るのか」と驚きました。それが一度目の適合通知でした。やる気いっぱい確認検査に向かいましたが、医師からはドナー不適格を告げられました。患者さんの希望が末梢血幹細胞提供なのに、私の腕の血管が細すぎて末梢血は無理だろうと判断されたことが原因でした。これまで成分献血は幾度もできていたので驚くとともに、そこまで厳格にドナー適格が判断されていることに安心しました。一方、「せっかく適合したのに」と悔しく、がっかりしました。

二度目の適合通知が届いたのは、それから一年ほど後のことでした。ちょうど福岡に旅行中、ホテルの部屋に戻った際に見慣れないメールが来ていたことに気が付きました。酔っていたこともあり、最初は迷惑メールだと思い削除しようになりました。しかし読み進めるうちに適合通知だと気が付き一気に酔いが覚めました。すぐにバンクのアンケートに答え、二度目のコーディネートが始まりました。患者さんが骨髄移植を希望していたため懸念されていた血管の細さも問題ないと判断され、検査の結果ドナーに選定されました。

最終同意

最終同意では、実家の母に東京してもらいました。ドナー登録の際には相談し、説明員の活動をしていることも折に触れて話しており、いつもポジティブな反応でした。しかしいざ最終同意となると全身麻酔などのリスクからなかなか首を縦には振ってくれませんでした。正直「どうして今になって…」という思いも抱きました。しかし「もし逆の立場であれば自分も同じように心配するだろうな」と思い直し、説明員として活動する際のリーフレットなどを使ってじっくり説明しました。最終的には「もし家族が患者になったら…」という話をするので、同意してもらうことができました。自分自身の説明で納得してもらったとき、説明員をしていて良かったなと改めて思いました。

入院、採取

最終同意から入院までの間は、健康でいなければというプレッシャーから非常に長く感じました。「もしコロナに感染してしまったら、怪我してしまったら…」という思いから飲み会などは自粛し、大学の試験期間も挟み

ましたが生活リズムを崩さないようにしました。

入院の日程は二泊三日で、初日の昼過ぎに入院・検査、翌日の朝採取、最終日の昼前に退院という流れでした。初めての入院で院内を興味津々でうろろ



しているうちに夕食の時間、採取前夜となりました。

それまで「無事提供できるかな」「患者さんの病気が良くなるかな」というような心配や緊張はあっても、採取自体を怖いという思いはありませんでした。しかしいざベッドで目を閉じると急に「もし穿刺針が折れたらどうしよう…後遺症が残ったら…大地震が起こったら…」と悪い想像ばかりが頭に浮かび、怖いと思うようになりました。そんな想像で頭がぐるぐるしていたとき、隣のベッドからラジオか何かの音が漏れてくることに気づきました。「うるさいなあ。せっかくなら個室にしてくれば良かったのに」と悪い考えも頭をよぎりましたが、その音を聞いているうちに「隣の人も眠れないんだなあ」と思い始めました。そして「健康体である自分がリスクの低い骨髄採取術を受けるだけでもこんなに緊張するのに、患者さんの不安はどれほどだろうか」と考えました。もし自分が患者になったら、病気は治るのか、骨髄移植は成功するかと不安でいっぱいになるはず。そう思うと悪い想像を膨らませていた自分が恥ずかしくなり「やってやろう」と思い切った気持ちになりました。気付いたら朝になっていました。

着替えて手術室に入ると、いよいよだという気持ちになりましたが、もはや不安はありませんでした。「ゆっくり深呼吸してください」と麻酔をかけられ、深呼吸したと思った次の瞬間には手術室からベッドまで運ばれる最中でした。酸素マスクが苦しく、安静の間じつとしていなければならないのがつらかったほどです。安静後は飲み物を買に行くなどすぐにいつも通り歩くことができるようになりました。翌日以降もほとんど変化はなく、腰も痛むというより重めの荷物を持った翌日のような感覚が残るだけでした。その違和感も翌々日には完全に消え、傷跡も今では見えなくなりました。

提供を終えて

自分の細胞が他の誰かのためになるという唯一無二の経験ができたことに深く感謝しています。採取前夜に不安を感じたのは想像力のせいでしたが、最終的に明るい気持ちで提供することができたのも、患者さんへの想像力を働かせることができたからだと思います。

この経験を活かしつつ、またそうした一つひとつの思いを大切に、これからの活動に取り組んでいきたいと思っています。

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2023.6.16~8.15)

匿名希望 20,000円/大塚礼子さん 10,000円/小松崎辰哉さん 30,000円/高遠勲さん 27,000円
竹崎恵子さん 3,000円/徳田ひろみさん 2,000円/二見茂男さん 2,000円/光江健太郎さん 10,000円
中谷哲郎・光子さん 12,000円/新田恭平・雅子さん 10,000円/村上順子さん 2,000円
櫻井洋子さん 2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

編集者 雑記



▼先日、大学以来の友人から次のように言われました。「君と僕が生れたのは終戦の年だったが、あれから78年になる。その終戦から78年前は1867年大政奉還がなされた明治維新の年だった。そして今から78年後は、2101年、22世紀になる。その時の日本の人口は4700万人と推計されている。ほとんど明治維新の時代と同じになる。縮んで行くこれからの78年をどう設計していくべきだろうか」

▼そういえば昨年5月にイーロン・マスク氏も「このままでは日本人はいなくなる。大変なロスだ」とツイートしていたなと思いました。

しかし、人口推計は年々狼少年化しているし、子供家庭庁も出来たし、働き方改革や女性の社会的参画などもコンセンサスになりつつある。心配だけしていても仕方がない。それよりも来週日曜に迫った町内会の一斉ドブ掃除の人手をどう集めるかが当面の課題だ。私も妻ももうあの重い石のふたを持ち上げられない。3軒隣にベトナム人の建設従業員が住んでいる。あの会社の社長に頼んで手伝ってもらえないだろうか。

▼町会役員の妻は思い切って社長に会いに行きました。

社長は引き受けてくれ、「日曜は駄目だが今日中に従業員の住んでいるところまではやりましょう」と言ってくれました。そして社長自ら出てきて掃除を始めました。しかもラッキーなことに「ええい、ここまでやったら全部やっちゃいましょう」と並びの10軒分全て片付けてくれました。来年からはようやく下水道工事が始まるので、我が町会の住民によるドブ掃除は逃れられそうです。

▼さて、そうすると22世紀に向けてどうするか。小人閑居して愚策を練る。22世紀までは未だ遠い。平成23年2月21日国土審議会政策部長期展望委員会の資料によれば2050年の人口推計は9千万人台とある。まあこのくらいまでなら反転攻勢かけられるのではないかと一安心。

▼ただ、気になったのは若年人口が(2004年)の1759万人から2050年には821万人と半減以下になり、これまでの主流だった「夫婦と子供」の世帯は少数派になる。代わって「単独世帯」が最多になるとの予測でした。その5割以上が高齢者世帯になるとありました。

▼今夏も多くの地域で水害被害が頻発しました。テレビ報道を見ても高齢世帯の困窮が目立ちます。その際ボランティアの助けが如何に大事かも改めて教えてもらいました。あのドブ掃除をしてくれたベトナム人や建設会社の社長達、ああいうボランティアスピリットが今後ますます大事になるのだろうと実感しています。

(O)

東京の会 「9月、10月定例会」 のお知らせ

9月16日(土)、10月21日(土)午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。

会場：こくみん共済coop東京会館
(旧：全労済東京会館) 3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※11月定例会予定・11月18日(土)午後5時30分より

ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを!

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 骨髄バンクを支援する東京の会